

第9回 校長会議あいさつ

R.5.11.15 稲垣

小春日和の晩秋かと思えば一転して、北風小僧が駆けて来ました。学校では季節はずれのインフルエンザが猛威を振るい、学級閉鎖も起きています。今後は、本格的な冬の到来に向けて、予防対策に努めるとともに、たくましい体力づくりを推進していただきたいと思います。

学校訪問において、タブレットを活用した授業が頻繁に見られるようになってきました。タブレットの主たる導入目的は、学習の効率化と個別最適化ですから、これは学力を向上させるために最大限活用したいものです。学習の効率化については、学校間や教師間で多少の差はありますが、各校のICT教育推進委員や若手教師のリードによって着実に普及してきているようです。一点、気をつけたいことは、タブレットを使うことを意識するあまり、教科の力をつけるという本来の目的がおざなりになってしまうケースです。また、個別最適化については、主に朝のドリル学習や特別支援学級の授業で活用されていますが、いっそうの推進をお願いします。さらには、プログラミングを学習活動に加えた場合には、問題解決に奏功する思考力（いわゆるプログラミング的思考力）を身につけさせる有効な手立てとなりますから、積極的に取り入れたいと思います。

プログラミング的思考力については、文科省の定義よりも、岡嶋裕史氏の説が実践的で、授業づくりのヒントになると思います。岡嶋氏曰く「自分一人では解決しきれない大きな問題を、小さな問題へと分解し、それでも解決できないようであれば、さらに小さな問題へと分解していける力。解決可能な水準になった問題を解決するための方法を考え、しかもその方法を具体的な解決策へと導ける力。具体的な解決策は、必ずしも一人で作る必要はないが、多くの人々が作ったそれをどう組み合わせれば、最初に設定されていた大きな問題を解決できるのかを考えられる力。協力してくれる人（必ずしも協力的でない人でもいい）に何をしてほしいかを適切に伝え、彼女ら／彼らが提供する解決策をまとめ上げる力」と。この問題解決プロセスは、まさに先駆的な総合的な学習が理想として目指したところでもあります。現行学習指導要領では、プログラミング学習に期待されるものにもなっています。

先日の学校訪問で、タブレットを上手く活用した授業を見ました。6年理科、電気の授業で「地

球にやさしいイルミネーションを作ろう」と追究した単元の一場面でした。前時までの話し合いで「地球にやさしい」という条件から、省エネの必要性を導き出した子どもたちは、本時では、イルミネーションを省エネにするためには、どのようなプログラムをするといいのだろうという課題に、Micro:bit のアプリを使って取り組んでいました。

参観したのは、ちょうど子どもたちが考えたプログラムの発表場面でした。一人の児童が、自分の考えたプログラムを大型モニターに映しながら、「人が来た⇒光る 人がいない⇒消える 暗い⇒光る 明るい⇒消える」と説明しました。同じ考えの児童が多かったと思われます。教師に他の意見を求められて、次に挙手した児童は「人が来た かつ 暗い⇒光る そうでない⇒消える」と発表しました。文字に表してしまえば簡単なロジックなのですが、発表を聞いた児童らの表情には、「あっ、そうか」「なるほど」と、ちょっと光が灯ったように感じました。

今回は理科の授業でしたが、総合的な学習との連携も加味して、「地球にやさしいイルミネーション」についての追究を膨らめて、「地球にやさしい」をSDGsの観点から捉えたり、「イルミネーション」の社会的価値や経済活動との関連に広げていくと、ダイナミックな問題解決学習もできるように思います。また、Micro:bit のアプリを使ったプログラミングについても、学年の発達段階に応じて、より複雑な構造にもチャレンジさせられる可能性が窺われました。

教育委員会としては、今後もアンテナを高くしながら、ICT教育推進委員会を中心に、積極的な実践研究が進むように指導していきたいと思います。各学校においても、市教研や教科指導員会とも連携しながら、「楽しくて力のつく授業」の具現化に向けて、タブレットの活用にも努めていただきたいと思います。